

## 平成 29 年度 県・市小教研学習指導改善調査【結果分析】第 5 学年国語

### 1 調査結果の分析

#### (1) 資料選択・読み取り・話し合いについて (①～⑥)

##### ア 資料と本文を関係付けて読む力・・・(①②)

①は、【話し合いの様子①】での 3 名の児童の発言内容と資料 A (表) を関係付けてとらえ、正しい組み合わせを選択する問題である。正答率は 87.7% であり、資料と本文を関係付けて読むことができたと考えられる。

②は、【話し合いの様子①】での発言内容として正しいものを資料 B (折れ線グラフ) から捉える問題である。折れ線グラフには最高気温と平均気温が記されており、それぞれを正確に捉える必要がある。正答率は 76.3%、誤答率は 23.3% である。誤答の多くは、最高気温と平均気温を読み間違えたものである。正答の 4 以外の選択肢は資料 B と対応していない内容であり、関係付けられない内容を消去できた児童が正答したと考えられる。

##### イ 中心となる内容をとらえる力・・・(③④)

③は、【話し合いの様子①】から指示された理由を述べている子どもを選び、その理由を条件に合わせて記述する問題である。正答率は、76.8% である。誤答傾向として、「けが人が増える」理由ではなく「けが人が増える」意見を述べた大野さんを選ぶこと、「けが人が増える」理由ではなく「体調が悪くなる」理由を挙げることの 2 点が挙げられる。どちらも問題の意図のとらえが不十分であったと考えられる。意図を正確にとらえて答える指導の充実が求められる。

④は、【話し合いの様子①】から指示された事柄を書き抜く問題である。正答率は 90.4% と全問中最も高い。「心がけてほしい」というキーワードが問題文にも【話し合いの様子①】本文にもあり、書き抜きやすかったと考えられる。

##### ウ 話し手の意図をとらえる力・・・(⑤)

⑤は、【話し合いの様子②】での話し方から、話し手の意図をとらえる問題である。昨年度の結果から、「モデル文を用いて『反ばく』表現を理解させ、その効果を考えさせること」をねらっている。正答率は 80.6% である。意見・質問・確認など、話し合いの際の話し方を理解して話す経験を積むことができていると考えられる。

##### エ 内容を的確に押さえる力・・・(⑥)

⑥は、【話し合いの様子②】の内容を押さえる問題である。正答率は 77.9% である。【話し合いの様子②】の内容と、示されている黒板の図の文を対応させて読む力が必要である。

#### (2) 記述問題について・・・(⑦～⑪)

⑦～⑪は、読んだことを基にして、自分の考えを論理的に記述する問題である。指定された字数に達していない、超えていると⑥が誤答、⑦以下がすべて無答となる。昨年度の結果から、「子どもたちが 350 字程度の文章を書く力を付ける活動を継続すること」の充実が求められていた。

##### ア 制限時間内に指定された字数で記述する力・・・(⑦)

正答率は、88.3% である。昨年の 65.5% に比べて 22.8% も上がっている。字数不足や超過である誤答は 9.0% と低かった。各校で 350 字程度を書く活動を継続的に行った結果であると考えられる。活動の継続と充実が求められる。

### イ 自分の立場と理由を明確にして書く力・・・(⑧)

正答率は、75.2%である。誤答傾向としては、「自分の考えた案を書く」「理由が整合していない(クイズのよいところ・クイズの問題点)」などが見られた。問題の意図を正確にとらえていないことや自分の立場と理由に整合がとれていないことが理由であると考えられる。立場や理由を明確にして書く経験を積ませることが必要である。

### ウ 理由に説得力をもたせて書く力・・・(⑨⑩)

⑨は正答率 77.9%，⑩は正答率 71.9%である。⑨は「げきで発表することの問題点」，⑩は「げきの問題点に対する解決策」を書く問題である。⑨の誤答傾向として、「げきにかかわる記述がない」「げきの問題点の記述がないこと」など、問題に合った答えができていないことが挙げられる。⑨が誤答であると⑩も誤答となる。⑩の誤答傾向として、⑨で書いた問題点と整合した解決策になっていないということが挙げられる。説得力のある文章を書く指導の充実が求められる。

### エ 内容をまとめて書く力・・・(⑪)

⑪は正答率 54.9%，誤答率 35.3%，無答率 9.8%と、全問中最も低い結果であった。内容をまとめて簡潔に書かなければならず、また、条件に合わせて書かなければならないため、難度は高い。誤答傾向として、二つのうち一つの事柄しかまとめていなかったり、前述した文に基づいてまとめられていなかったりすることが挙げられる。内容をまとめて書く力は重要であり、定着のための指導の充実が求められる。

## 2 今後、重点的に指導してほしいこと

### (1) 国語科の学習で

- 相手の意見を踏まえて述べる話し合い活動を行うなど、反ばく表現に触れる経験を積ませること。
- 意図を正確にとらえて文章を読んだり、書いたりする必然性のある課題を設定すること。
- 組み立て表の記述を活用して書く内容を整理させたり、内容をまとめて書く経験を積ませたりすること。
- 350字程度の文章を書く力を付ける活動を継続すること。

### (2) 他教科等で

- 図や表などの非連続型テキストを、視点を明らかにして読む活動を取り入れること。
- 資料や体験から目的に応じて情報を選択し、順序付けたり、まとまりで区切ったりして文章を書く活動を取り入れること。